学校法人 城西大学　http://www.josai.jp/

東京紀尾井町キャンパス
〒102-0094　東京都千代田区紀尾井町 3-26
TEL. 03-6238-1300

城西大学
城西短期大学　http://www.josai.ac.jp/

坂戸キャンパス
〒350-0295　埼玉県坂戸市けやき台 1-1
TEL. 049-286-2233

城西国際大学　http://www.jiu.ac.jp/

東金キャンパス
〒283-8555　千葉県東金市求名 1 番地
TEL. 0475-55-8800

安房キャンパス
〒299-2862　千葉県鴨川市太海 1717
TEL. 04-7098-2800

幕張キャンパス
〒261-0023　千葉県千葉市美浜区中瀬 1-7-1
住友ケミカルエンジニアリングセンタービル 22 階
TEL. 043-297-2521

環境にやさしい再生紙を使っています。

次世代育成・健康推進・グローバル教育・地域活性化への取り組み

大学の社会的責任を果たすために

2009

JOSAI UNIVERSITY
JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY
JOSAI JUNIOR COLLEGE

学校法人 城西大学

大学の概要

学校法人城西大学（JOSAI）は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を持ち、首都圏を中心に紀尾井町、坂戸、東金、安房、幕張の5つのキャンパスを展開する国際総合大学です。
エクステンション講座・公開講座も大学内だけでなく、各地で開講しています。

城西大学

坂戸キャンパス

経済学部	□ 経済学科	
現代政策学部	□ 社会経済システム学科	
経営学部	□ マネジメント総合学科	
理学部	□ 数学科	
	□ 化学科	
薬学部	□ 薬学科（6年制）	
	□ 薬科学科（4年制）	
	□ 医療栄養学科	
大学院	□ 経済学研究科	経済政策専攻修士課程
	□ 経営学研究科	ビジネス・イノベーション専攻修士課程
	□ 理学研究科	数学専攻修士課程
	□ 理学研究科	物質科学専攻修士課程
	□ 薬学研究科	薬学専攻博士後期課程
	□ 薬学研究科	薬学専攻修士課程
	□ 薬学研究科	医療薬学専攻修士課程
	□ 薬学研究科	医療栄養学専攻修士課程
別科	□ 日本文化専修課程	
	□ 日本語専修課程	

城西国際大学

東金キャンパス

薬学部	□ 医療薬学科（6年制）
福祉総合学部	□ 福祉総合学科
経営情報学部	□ 総合経営学科
メディア学部	□ メディア情報学科
国際人文学部	□ 国際文化学科
	□ 国際交流学科
大学院	□ 人文科学研究科
	□ 経営情報学研究科
	□ ビジネスデザイン研究科
	□ 福祉総合学研究科
留学生別科	□ 日本文化・ビジネス専修課程
	□ 日本語専修課程

安房キャンパス

観光学部	□ ウェルネス・ツーリズム学科

幕張キャンパス

メディア学部	□ メディア情報学科

城西ベースカレッジ
〈城西短期大学〉

坂戸キャンパス・東京紀尾井町キャンパス

ビジネス総合学科 □

東京紀尾井町キャンパス
〒102-0094　東京都千代田区紀尾井町 3-26
TEL. 03-6238-1300

坂戸キャンパス
〒350-0295　埼玉県坂戸市けやき台 1-1
TEL. 049-286-2233

東金キャンパス
〒283-8555　千葉県東金市求名 1 番地
TEL. 0475-55-8800

安房キャンパス
〒299-2862　千葉県鴨川市太海 1717
TEL. 04-7098-2800

幕張キャンパス
〒261-0023　千葉県千葉市美浜区中瀬 1-7-1
住友ケミカルエンジニアリングセンタービル 22 階
TEL. 043-297-2521

CONTENTS

3 理事長緒言
次世代育成、健康推進、グローバル教育、地域活性化への取り組み
大学の社会的責任を果たすために

地域・社会貢献活動
5 坂戸地域の活性化
6 埼玉地域の活性化
7 東金地域の活性化
8 鴨川地域の活性化
9 生涯教育を各地で展開
10 地域連携プロジェクト
11 ボランティア活動
12 健康で豊かな人生のために

国際社会への貢献
15 ハンガリーとの交流
19 学会・シンポジウムの開催
21 アジアでの交流と支援
22 同窓生との連携
23 文化・出版を通しての貢献

文化振興・文化資源保存活動
25 房総地域
27 文化財修復・保存
28 建築賞受賞

新しい取り組み
29 子どもたちとともに
30 政策提言による社会貢献

33 Message
34 編集後記

学校法人 城西大学
理事長
水田宗子

2009
JOSAI UNIVERSITY
JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY
JOSAI JUNIOR COLLEGE

次世代育成、健康推進、グローバル教育、地域活性化への取り組み

大学の社会的責任を果たすために

学校法人城西大学は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を持ち、首都圏を中心に5つのキャンパス(紀尾井町、坂戸、東金、鴨川、幕張)において、大学としての社会的責任を果たすべく、次世代育成、健康推進、グローバル教育、地域活性化をキーワードに、大学における教育・研究に加えて、地域・社会貢献、文化振興・文化資源保存活動、国際社会への貢献など、多岐にわたって活発な活動を展開してまいりました。その中の代表的な取り組みについて、この冊子に紹介しましたので、ご覧ください。

地域・社会貢献活動　各キャンパスにおいて、大学の学部や立地などの特徴をいかしたエクステンション講座を開講し、毎年多くの受講生で賑わっています。大学内での開催だけでなく、近隣の地方自治体へ出向き講義を行う「出張講座」も長年続けてきています。

◆ **JU（城西大学）**では、地元の休耕地をお花畑にするプロジェクト、“埼玉”に焦点をあてた生涯教育講座、安全で安価な消毒薬づくり、食事と栄養の正しい知識を身につけてもらうための“栄養かるた”作りと保育園・幼稚園への配布、一般販売もし、大変好評を得ています。

◆ **JIU（城西国際大学）**では、地域のみなさんの後押しもあり、大学前の通りを「カリヨン通り」と名付け、欧風のモダンなデザインの街炉灯を設置しました。鴨川吉保八幡神社の流鏑馬行事のためにメディア学部学生がてぬぐいをフレッシュな感覚でデザイン、また大学祭でのバザーでは、その収益金をスリランカをはじめさまざまな団体に寄付し、大変喜ばれました。

文化振興・文化資源保存活動　両大学に水田美術館を設置、創立者水田三喜男の浮世絵コレクションの一般公開をはじめ、地元ゆかりの画家の特別展を催しており、多くの方々にご来場いただいております。また、2006年にはじまった、外房と内房をつなぐ生活道路である嶺岡林道の桜並木の修復もJIU観光学部と地元の方々が一緒になり、桜並木が鋸南町まで続くよう大切に大きく育てています。

【建築賞受賞】　各キャンパスや施設の景観にも心を砕き、いくつもの建築賞（清光会舘：1992年さいたま景観賞、鋸南セミナーハウス：第12回千葉県建築文化賞／第32回東京建築賞建築作品コンクール優秀賞、JIUランドスケープデザイン：1996年日本建築学会賞／2006年日本造園学会賞、水田家生家：第10回千葉県建築文化賞、JU経営学部棟：2008年全米建築学会Merit賞）を受賞しています。

国際社会への貢献　今年度は、5月の国際映画学会の開催を機として、豊かでユニークなメディアカルチャーをもつ日本において、今後も日本・アジア映画研究の拠点として国際的な映像メディア学研究の活動の場となるよう「日本/東アジア映像研究センター」を設立しました。また、今年はハンガリー共和国との関係が非常に深まった年で、ハンガリー語を学ぶ学生が首都圏で一番多いということから、12月にショーヨム・ラースロー大統領が来学され、学生との交流がなされました。

その他、キッズ・ライブラリーの設置と世界各国の姉妹校から送られた海外の絵本の読み聞かせ、日中女性学会議の開催、インターナショナルこどもクリスマスパーティ開催など、世界各国の大学との共同研究の推進、さまざまな国際会議・シンポジウム、イベントを多数開催しています。

【政策提言】　2008年、学校法人城西大学は、「現代政策研究センター」を設立いたしました。これは、私どものキャンパスの一つが、国の政策決定の中枢機関となる永田町にも霞が関にも近い紀尾井町に位置することから、「大学の知」を政策提言につなげ、国家の福祉に役立ちたいという志によるものです。今年度は、南京での世界女性学長会議における女性の学び直しについての発信、文部科学省学生支援推進事業（GP）に基づき、国際介護フォーラムの開催や、国際介護基準についての提案を行っています。

私どもは、2015年に城西大学が創立50周年、2012年に城西国際大学が創立20周年を迎えます。これまでの地道な活動を大切にしつつ、これからも継続的に、次世代に文化を伝え、人材を育成し、健康で豊かな暮らしのため大学の「知の還元」をはかり、国内外の文化・研究交流の推進に取り組んでまいります。

本冊子を通して、学校法人城西大学の取り組みについて、ご理解いただければ幸いです。

学校法人 城西大学
理事長
水田宗子

坂戸地域の活性化（地域活性化）

箱根駅伝シード権獲得

第86回東京箱根間往復大学駅伝競走において城西大学男子駅伝部が、総合6位入賞を果たし、創部10年目の節目の年にシード権をはじめて獲得しました。

2010年1月20日に、これまで男子駅伝部の応援をしてくださった方々をお招きし、学生とともに、出場選手たちをねぎらい、関係者にお礼を伝える会を開催しました。

毎年市役所に垂れ幕をかけ、またバスをチャーターして応援にきてくださっている地元からは伊利仁坂戸市長が駆けつけてくださり、「皆さんの走りが、坂戸市民をはじめ多くの方々に感動を与えた。おめでとう」とお祝いを述べられました。

祝勝会にて地元のみなさまに謝辞をのべる櫛部監督

また、駅伝部創設から現在に至るまで、さまざまな形でお世話になっているエスビー食品株式会社スポーツ推進局長瀬古利彦氏からは、創設のときの苦労話や箱根駅伝に出場することの大変さ、そして、今後城西大学に大いに期待しているとの挨拶をいただきました。

櫛部静二監督は、「成績を出せたのは、大学ならびに地域の支援があったからこそ、ありがとうございました。これから優勝という目標に向かってがんばります。」と謝辞と決意を語りました。また、箱根路を走った選手が一人一人お礼を述べた中で、高橋優太主将は、「大学生最後の年にいい形で終われてうれしい。みなさん、応援本当にありがとうございました。」と深々と頭を下げ、感謝の気持ちを表していました。

今回の祝勝会には、姉妹校である城西国際大学からも多くの来賓のみなさん、そして、卒業生デュオLOFTや吹奏楽団、チアリーディング部が駆けつけ、演奏や演武を披露しお祝いしました。

経済産業省主催 社会人基礎力育成グランプリ2009「さかどのめ」が準優秀賞

城西大学経営学部では、行政や企業と連携した地域活性化活動に取り組んでいます。さかどのめは、坂戸市の地域情報サイトで、経営学部末永啓一郎ゼミの学生たちが2006年にオープンさせて以来、運営・管理を続けています。

このサイトでは、坂戸市のイベントを特集したり、公共施設や病院、飲食店などの情報マップを掲載しています。坂戸市観光協会や坂戸市商工会のホームページにもリンクが貼られ、これまでのアクセスは2万5千件を超えて、発信した情報への手ごたえを感じています。

坂戸市情報サイト「さかどのめ」

経済産業省主催の社会人基礎力育成グランプリ2009で「ITを活用した地域活性化プロジェクト『さかどのめ』」というタイトルで報告を行い、全国から参加した40校の中で見事、準優秀賞を獲得しました。

◆ さかどのめ　http://sakadonome.info/

埼玉地域の活性化（地域活性化）

政策研究プロジェクト「滝不動前お花畑プロジェクト」

耕作放棄地の活用などを研究している城西大学現代政策学部の石井雅章セミナーでは、稲作と酪農を営む地元の方から休耕している滝不動前の土地の提供を受けて、大学近くの休耕田を花畑にする取り組みを進めています。花を楽しむだけでなく、収穫した種から精製した油をバイオ燃料にするなど、授業に活用する試みで、2009年5月12日には約50名の学生が0.1ヘクタールの休耕田にひまわりの種を植えました。

耕作をやめた水田は、手を入れないでおくとすぐに雑草などで覆われ、再び水田に戻すには大変な手間がかかります。休耕田になっている土地に花を咲かせて地域を元気にしよう、というのがこのプロジェクトの目的です。

農地を提供して下さった亀田さんからは「学生の若い力を借りて一帯を花畑にし、将来は秩父の芝桜のように花の名所になれば」と期待の言葉をいただいています。

今後は城西健康市民大学の受講者とともに花畑を整える作業をしたり、ひまわりの他にも野菜やハーブ作りにも取り組む予定です。セミナーの学生たちだけでなく学部の枠を超え、また地域の方々とも連携を取りながら活動を広げていきたいと考えています。

休耕地を手入れする学生たち

きれいに花を咲かせたひまわり

鶴ヶ島市長による講演会『自治体の過去・現在・未来』

城西大学経済学部の「行政への参加」の授業では、鶴ヶ島市の藤縄善朗市長を招いて講演会を開催し、この授業を特別に一般公開しました。

2009年は『自治体の過去・現在・未来』という演題で、4月15日に開催され、100人を超える地域の方々が聴講されました。

藤縄市長は、「鶴ヶ島市歳入総額の推移」「基金（貯金）残高」「埼玉西部環境保全組合決算推移」「実質債務残高比率」「税の収納率」「鶴ヶ島市の高齢化比率」「年齢別人口、年齢構成比率」などパワーポイントを用いて、鶴ヶ島市の現状について具体的に分かりやすく説明されました。

鶴ヶ島の藤縄市長による講演

続いて「未来へ」と題して、「一本松土地区画整理事業見直し」「協栄一本松線開通」「学校給食センター更新」「地域ICT・地域協働・地域福祉」「水土里（みどり）の交通圏構想」「圏央鶴ヶ島IC周辺の活性化」などの取り組みを通して「鶴ヶ島の自立」が語られました。

講演会では質疑応答も活発になされ、市民が市長へ直接に質問する、まさに授業の名の通り、行政への参加となりました。

東金地域の活性化（地域活性化）

JIUカリヨン通りオープニング

2009年9月25日、10時より秋季入学式に先立ち「JIUカリヨン通りオープニングセレモニー」が執り行われ、志賀直温東金市長をはじめ地元の皆様、多数の来賓の方々、また、この日に入学式に臨む留学生が参加しました。

開校してからこれまで、学生の通学路となっている求名駅前からキャンパスまでの歩道を、地域の皆さんと協力しながら整備し親しみある通りを目指してきました。このたび、地域の皆さんの賛同を得てこの通りを「JIUカリヨン通り」と名付け、景観照明として、町並みに溶け込むよう、欧風のモダンなデザインの街路灯を4基設置いたしました。

地元の方たちとテープカット

セレモニーでは、水田宗子理事長から「大学らしさ、東金らしさが象徴された、明るくにぎやかな通りになることを願います」と挨拶があり、テープカットが行われました。

◆ポスターコンテスト

カリヨン通り開設を記念しポスターコンテストを行いました。理事長賞に城西国際大学メディア情報学科３年窪田知昭さん、父母後援会長賞に長島美幸さん、同窓会長賞に坂本光さんが選ばれました。

≪創作趣意≫

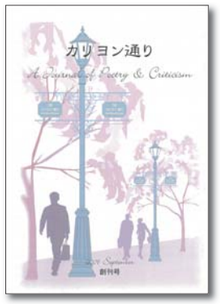
（左）私たちJIUの学生の通学路、大学と地域を繋ぐ道であるカリヨン通りを抽象的に表現しました。非現実的な表現により「未知なる未来へ繋がる道」の意味も表わそうと意図しました。未知には歩く人とシンボルである街灯を配置しました。

メディア情報学科３年窪田知昭さんの作品

（右）このカリヨン通りはJIUの学生の多くが、通学路として親しむことになります。親しむということから、テーマはカジュアル。色彩にこだわり、単純な形態の組み合わせにより身近な印象を持たせました。左側の四角は住宅、右側には樹木、そして中心はカリヨン通りとシンボルである街灯を配置しました。

◆同人誌「カリヨン通り」発刊

灯につけられた二色の旗が翻る美しい朝、「カリヨン通り」のオープニングセレモニーが開催されました。もともとJIUには、詩人の水田宗子先生、吉増剛造先生がおられ、また詩をテーマに研究している大学院生もいます。また朗読会やパフォーマンスなどを継続的に開催しており、現代詩は親しいものでした。そうした雰囲気のもと、大学のカリヨンの名を受けた通りのオープニングを記念して、詩や文芸を愛する仲間が集い、このカリヨン通りを地元に根付いた新たな文化発信の場となしていくために「カリヨン通り」と名付けた同人誌を発刊しました。



「カリヨン通り」創刊号

女性の先生方とつなげた四行連詩や俳句に加え、日中短詩協会を発足したなかで生まれた大連の先生方との四行連詩も載せてあります。この詩誌には、四行連詩を含め、さまざまな形の詩や評論、エッセイの投稿を願い、思わぬ発見や出会いに満ちた、そして現代詩に関する批評の国際的なフォーラムになるよう、号を積み重ねていきたいと考えています。

鴨川地域の活性化（地域活性化）

鴨川市流鏑馬（やぶさめ）手ぬぐい

城西国際大学観光学部とメディア学部では、鴨川市の吉保八幡神社「流鏑馬保存会」と協力して、流鏑馬をデザインした手ぬぐいの制作を行いました。

吉保八幡神社の流鏑馬は、鎌倉時代中期から伝統行事として伝えられ、毎年秋に行われています。神殿前の馬場に的を立て、その命中度で翌年の農作物の収穫の豊凶を占うもので、五穀豊穣を祈願する神事です。

鴨川市民に親しまれてきた伝統的な行事を、しっかりと次の世代に受け継いでいきたい、そんな思いを手ぬぐいのデザインに込めました。流鏑馬をメディア学部の学生が新しい視点でとらえ、フレッシュな感性でデザインしています。

尚、この収益は流鏑馬保存会に寄贈し、運営費の一部として使っていただいています。

デザイン：メディア学部3年　坂本光（平野ゼミ）

ポピー大使に観光学部生

千葉県の館山市にある「館山ファミリーパーク（オーシャンヴェールリゾート）」が主催する「2代目ミスポピー大使」に城西国際大学観光学部3年生の稲葉さんが選ばれました。

今後は、館山ファミリーパークでの一日園長、ポピーの開花時期の2月、3月での園内案内や年末年始特別警戒取締り活動への参加、各施設訪問などを行い、観光振興の一役を担います。また12月1日には、鴨川市役所など近隣市町村・観光協会などに就任の挨拶のため訪問し、城西国際大学観光学部・安房キャンパスにも挨拶にきました。

千葉県アピールのために活躍中

環境にやさしい飛行船就航

城西大学と城西国際大学の名前を入れた飛行船が全国の空を遊覧しています。

2010年4月に新設される城西国際大学環境社会学部では、自然や環境の視点から物事を見直し、新しい社会を担う人材を育成していきます。飛行船は人体に安全なヘリウムガスを使用した、環境にやさしい乗り物です。環境社会学部の目指すところと、飛行船の特徴とが共に環境をキーワードにしていることから、大学としては初めて飛行船との連携運航が実現しました。

飛行船内では、城西国際大学観光学部の学生たちがインターンシップを始める予定で、上空で乗客の案内などを通して観光サービスに欠かせない「もてなしの心」を学びます。

日本各地の空に城西大学号と城西国際大学号が遊覧

生涯教育を各地で展開

城西大学09年度「さきたま講座ー郷土と文化―」

地域についての学び

城西大学では、2009年5月からエクステンション・プログラムで、「さきたま講座ー郷土と文化―」（全10回）を開講しました。

埼玉県に住みながら、埼玉のことは知らずに暮らしているのではないか。自分達の住むまちに関心を持ち、埼玉県人として埼玉の歴史や文化について深く学ぶことで、郷土を知り、郷土を愛し、この土地で暮らす智恵や愉しみを増すことになるのではないか、と企画した講座です。

エクステンション・プログラムの受講者には、仕事をリタイアされた方々が多くいらっしゃいます。地域に根ざして生きるなかで、郷土を知り、郷土を愛することは、第2の人生という新たな出発にふさわしい学びともいえます。

2009年度は、秩父神社と夜祭り、小鹿野歌舞伎、岩槻城や岩槻人形、入間の農業詩人や作家澁澤龍彦についてなど、多岐にわたる郷土と文化についての講演となりました。

東京紀尾井町キャンパスエクステンション講座の展開

大林監督が映画女優山口百恵について語る

2009年度東京紀尾井町キャンパスにおいては、創刊90周年を迎えるキネマ旬報社と連携して、大林宣彦監督、若松孝二監督、またドラマ『坂の上の雲』を手掛けたNHKディレクター佐藤幹夫氏を迎え、映画・映像関係の講座を連続開催致しました。いずれも旬のテーマであったため、ホールを埋め尽くす受講生が集まりました。

また、2009年4月に創立家である水田宗子理事長より、鈴木春信の『六玉川』が大学へ寄贈されました。それを記念し、「日本を離れた日本コレクション紀行～メトロポリタン美術館、ギメ東洋美術館、ボストン美術館～」として講座を開講。これは、次回も継続開催の予定です。紀尾井町の立地をいかした歌舞伎鑑賞講座や、議員立法についての勉強会も開催しています。

さらに受講生同士の交流をはかるためにJOSAI KIOI CLUBイベントを年に一度開催しており、昨年のカヤグムに引き続き今回は、スペインのFADOのレクチャー＆コンサートを行いました。

ファドについてレクチャーする歌手 松田美緒氏

FADO演奏：つのだたかし／Leonard BRAVO／松田美緒

地域連携プロジェクト

2010千葉県男女共同参画推進連携会議開催 水田宗子理事長連携会議副会長に再選

水田副会長による報告

2010年2月2日、千葉市生涯学習センターにおいて、本学水田宗子理事長が、副会長を務める千葉県男女共同参画推進連携会議の全体会が「共同参画が紡ぐ、家庭・地域・職場の新しい形」をテーマに開催されました。

冒頭、千葉県男女共同参画推進連携会議会長大塚弘氏より、主催者挨拶がなされ、引き続き、副会長水田宗子氏より、昨年総理官邸ホールで開催された「国・地方男女共同参画推進ネットワーク」への参加報告がなされました。

今年度は、2年の会長・副会長の任期がきれる年でもありましたが、会場のみなさんから是非継続してお願いしたいとの声により、会長、副会長ともに再選となりました。これは、産業界と教育界から男女共同参画社会の実現を支える目的で、一昨年社団法人千葉県経営者協会会長兼京成電鉄相談役である大塚弘氏と女性学専攻の大学院、ジェンダー・女性学研究所を有する大学であるということで千葉県の大学代表の水田宗子理事長が選出された経緯がありました。千葉県の取り組みがすぐれているということで、2009年7月総理官邸で行われた全国大会で千葉県が選ばれて発表するなど、二人の功績が大きいことから、今回の再選となったものです。

基調講演は、東京大学社会科学研究所教授佐藤博樹氏が、「ワークライフバランス支援と女性の活躍の場の拡大」と題し、いかに管理職の意識改革を行い、時短に向けた取り組みができるか、また、男性側の働き方の改革が重要であると述べました。

千葉県副知事坂本森男氏より、千葉県がおかれている現状と課題について話があり、それを踏まえて、千葉県の男女共同参画推進連携会議が高い意識をもって、壁を乗り越え前進していかなければならないと訴え、みなさんに活動への協力をよびかける挨拶がなされました。

城西国際大学としても本学がこれまで取り組んできた女性学での実績を活かし、千葉県の男女共同参画推進に向けて、大学全体で支援していきたいと思います。

千葉圏域コンソーシアム

4つの大学で協力

2009年3月30日千葉大学において、千葉圏域コンソーシアムに参加する4大学（城西国際大学、千葉大学、神田外語大学、敬愛大学）の学長が一堂に会し、単位互換協定調印式を実施いたしました。

この協定により、4大学間での指定科目相互履修が可能となり、各大学の特色を生かして、幅広い知識とコミュニケーション能力をもった人材の育成を目指します。また、共同で進めている教育プログラムの開発基盤もより一層充実したものとなり、学生の交流促進のほか、eラーニング、留学生や障害者の学習支援技法の研究、シンポジウム開催などに取り組みます。

協定にあたって、水田宗子理事長は「地域の活性化、教育力向上にも貢献できる」と抱負を語りました。

ボランティア活動

エコキャップ運動

集めたキャップをまとめる学生たち

城西大学、城西国際大学では、エコキャップ運動の3つの活動目的、すなわちペットボトルのキャップを外して集め、「再資源化」することで「CO2の削減」キャップの再資源化で得た売却益をもって「発展途上国の子どもたちにワクチンを贈る」に賛同し、エコキャップ運動に参加しています。

世界にはワクチンさえあれば命が助かる子供たちが1日に6000人いるといわれています。エコキャップ運動は、ペットボトルのキャップを回収して再資源化事業者に販売することで得られた売却益を、開発途上国の子どもへのワクチン代として寄贈する運動です。キャップ800個で、ポリオワクチン1人分が届けられます。

城西大学経済学部では，2008度からエコキャップ運動を開始しています。清光会館、2号館、3号館、4号館の学内4か所に回収箱を設置して、キャップを回収しています。運動開始から2009年5月までに集めたキャップの個数は4万1664個に達しました。NPO法人エコキャップ推進協会を通じて、52人分の子供たちのワクチンとして生かされました。

城西国際大学では2008年8月から活動を始め、食堂や学生ラウンジなど学内の8か所で回収しています。2008年度は65人分のポリオワクチンとなり、2009年度も、12月末までに4万4877個（約112.2kg）、ポリオワクチン56人分となりました。また、福祉総合学部と連携する東金高校定時制の生徒たちが集めたキャップ100キロ分の寄贈を受け、協力の輪が広がっています。

ワクチンはユニセフを通じて世界の子どもたちの命を救うために役立っています。

学生有志がスリランカへ「子ども基金」を贈りました

スリランカからの手紙と写真

城西国際大学は大学祭の収益金を日本赤十字、ユニセフ国際児童基金、千葉県福祉団体など、さまざまな団体に寄付しています。2009年春に収益金の一部である十万円を、スリランカに贈ったところ、スリランカの村から写真とお礼状が届きました。

写真とお礼状を受け取った大学祭実行委員長の川村和寛さんは「学祭のテーマは“Peace～つながる笑顔の輪～”でした。そのPeace（＝平和）の気持ちが世界に広がり、みんなに笑顔になってもらえれば」と語りました。

城西国際大学では、貧困に苦しむアジアの子供たちのために「子どもたちの命と健康を守るための基金」を創設しており、寄付活動を今後も継続していきます。

このスリランカの村とのやりとりをきっかけにスリランカへ興味を持つ学生もおり、今回スリランカへの寄付を届けてくださった、NGO「自立のための道具の会」メンバーから、ボランティアの現状についてお話をうかがうなど、今後、継続的にアジアの子供たちのおかれている状況や、創設した基金としてできることなどについて勉強を続けていく予定です。

健康で豊かな人生のために（健康推進）

Web Based Training支援による高齢者機能低下予防水治運動療法講座

腰痛予防の水中運動

2008年9月7日から2009年3月まで、城西大学体育館プール及び他施設を使用して、「Web Based Training支援による高齢者機能低下予防水治運動療法講座」を開催しました。

これは、2008年度坂戸市大学連携地域創造助成プログラム臨床的考査研究に採択され、実施されたもので、約100名の市民が参加されました。

現在、高騰しつづける高齢者医療費の問題は、日本の福祉政策の根幹を揺るがしかねないところまできています。本講座では水中での運動が健康の維持に効力を発して、高齢者医療費を削減する事業プログラムと成り得るのか調査研究しました。

講座では参加者に水中運動を指導し、そのトレーニングの効果を①機能低下予防　②健康意識改善　③健康運動習慣づくりという3つの視点で測定しました。

この研究については、教育システム情報学会などの研究会で発表し論文化しました。臨床的考査で得られた結果を踏まえて、2009年度坂戸市大学連携地域創造助成“水治療法を活用した健康づくり”講座開設（Web Based Trainning支援による腰痛・関節症者のための水治療法による健康づくり）につなげ、さらなる地域住民の健康増進に役立てたいです。

城西大学薬学部の消毒液「地元にも」

学内で使われている薬学部製造の消毒液

新型インフルエンザ流行の影響で品薄になっている消毒薬を、城西大学薬学部が自前で製造し、学内向けに提供しました。

原料は、水、アルコール、陽イオン性界面活性剤などで、健康面に配慮して毒性のないエタノールを使い、気化しにくい「多価アルコール」を加えて保湿にも気を配りました。

城西大学のキャンパス内20棟100か所に置かれています。

この城西大学での取り組みを聞いた坂戸市健康増進部では、「市庁舎だけでなく、消毒液の設置が手薄だった保育園や小中学校などにも置ける」と活用が検討され、市が必要な原材料や容器などをそろえたうえで、大学側に消毒液の製造方法の指導を依頼する意向を伝えました。大学でも「適切な使用法を徹底してもらったうえで地元の要望に応えていきたい」と前向きに対応を予定しています。

城西大学 薬学部長　杉林堅次先生より

城西大学は地域に貢献できる大学でありたいと考えています。

インフルエンザなどの感染症の蔓延を防ぐには地域のそれぞれのメンバーが正しく行動することが必要です。薬学部を擁する大学だから出来ることがあります。我々が地域の健康づくりに役立てば幸いです。

『みんなで栄養かるた』を作成

坂戸市長へ贈呈

2009年6月15日、城西大学医療栄養学科サークルDHA（Diet and Health Association）が作成した『みんなで栄養かるた』を、坂戸市の伊利仁市長に手渡しました。

これは、坂戸市の2008年度大学連携地域創造助成事業のひとつで、かるたは、坂戸市と3大学（城西大・女子栄養大・明海大）が結んだ「市民の健康づくりに関する連携協力協定」の助成金を得て作成されました。

「おべんとう　赤・黄・緑と　あざやかに」などの読み札で、食事と栄養の正しい知識を身につけてもらうのがねらいです。サークルDHAのメンバーは、「この『栄養かるた』を通じて、市民の皆様に食事や栄養についての知識をさらに高めていただきたいと思い作成しました。保育園や施設に置いていただくことによって、子供からお年寄りまで食育に興味を持っていただきたいと思っています」と語りました。

このカルタは坂戸市から市内の公立保育園全6園に配られ、字を読み数を数える訓練にもなると評判になりました。食育をテーマにしたカルタは珍しく、市外の幼稚園や保育園、小学校からも問い合わせがあり、城西大学構内の文具店で販売を始めました。このカルタが広まったことで、サークルの学生たちは保育園に招かれてカルタ遊びをしながら子どもたちに食の大切さを教える機会にも恵まれるようになり、活動がさらに広がっています。

卒後教育・地域医療貢献「漢方・生薬認定薬剤師 薬用植物園実習」を開催

生薬鑑定

2009年9月12日、城西国際大学薬草園にて、財団法人日本薬剤師研修センターと日本生薬学会による漢方薬・生薬研修の一環として、本学の奥山恵美教授（生薬学講座）が、薬剤師を対象とした「漢方・生薬認定薬剤師薬用植物園実習」を開催しました。

実習には東京薬科大学名誉教授の指田豊先生をお招きして、薬草園に植栽されている「局方収載生薬の基原植物」の観察や資料館展示室での「生薬鑑定」を行いました。種々の生薬基原植物の特徴の他に含有成分や効能、漢方治療などにも話が及び、最近の論文での報告例紹介もありました。

また、受講された薬剤師の方々からは、現場で扱った処方箋と効能に関する質問や、インフルエンザに対する生薬・漢方薬の利用法などの質問や意見が出て、少人数ながらも活発な実習となりました。

薬学部では、今後も地域医療や卒後教育に対して、積極的な協力を行います。

ケナフ

チャイブ

君子蘭

健康で豊かな人生のために（健康推進）

「ニコニコ介護塾」開始 大きな反響・・申込者数は募集人数の２倍!

体の動かし方を学ぶ

2009年6月26日から城西国際大学福祉総合学部主催「ニコニコ介護塾」が始まりました。「現在、介護をしているので」「将来に備えて」「自分がよい介護を受けるために」等々、様々な理由で受講を希望された方々は、東金市、大網白里町などに住む26名の市民（うち男性4名）で、募集の2倍となりました。

介護福祉コースの松下やえ子先生による「楽らく動こう、動かそう」をテーマにした介護塾は、全8回。実践できる介護のコツのほか、認知症を知る、特定疾患とその対処法、など知っておくと便利な介護知識を学びます。

受講生からは、「思ってもみないやり方で、介護者が（介護する側、される側ともに）楽に介護できることを知りました」「運動力学、バイオメカニクス、ボディメカニクスなど、基本を再確認できました」「重心移動で、少ない力で楽に介護することを知りました」「介護させてもらう立場（介護者）の身体の姿勢。健康な人の身体の動きを知ること。動作時の体重移動がわかると、相手に負担をかけないで、共に動けることをわからせてもらった」「介護する人の心がまえ、移動介助の基本の基本、聞くものすべて、目からウロコでした」等々、大きな反響がありました。

また9月と1月には介護者の集いを開き、介護体験のある方たちが集まって、意見を交換しながら仲間づくりをする場をもうけています。

共同研究で美白コスメを開発

ウィニオンパンフレット

美白コスメ「共立ドクターズコスメアイシリーズ」は、城西国際大学かずさ創薬研究センターの商品化研究（特許出願）をもとに共立美容外科と共同で開発した商品です。

本学では４年前からタデ科植物抽出成分「藍ルーロス」に着目し、薬学部２年生の学生と共に美白効果の基礎研究を行い、この結果をJIU学会にて発表しました。その後、本学のかずさ創薬研究センターと共立美容外科が共同で研究を進め、アイシリーズの商品化に成功しました。

アイシリーズは化粧品よりも効果のある医薬部外品として分類されています。このシリーズの特徴である「ウィニオンイオン導入」は植物抽出成分を効率よく皮膚へ浸透させるもので、今回新しく開発した技術を利用しています。また、ウィニオンイオン導入器は、健康で美しい素肌を保つために必要な有効成分のマイナスイオン成分・プラスイオン成分を同時に肌深部に届けるイオン導入トリートメントが行えます。

この基礎研究の実験には城西国際大学薬学部の学生が多数参加し、夏期休暇を返上して、毎日動物と悪戦苦闘し頑張った努力の結晶です。はじめは慣れない動物実験にとまどった学生たちも成果が上がるにつれ研究に没頭していきました。そして、時間を忘れて研究成果をまとめ、発表練習も重ねました。その甲斐あってこの研究はJIU学会最優秀賞を受賞しました。皆様も是非一度お試しください。

ハンガリーとの交流（次世代育成・グローバル教育）

本学は、2007年にハンガリー文化センターの設立に参画し、ブダペスト商科大学との学術交流協定など、様々なチャネルを通じて、日本とハンガリーとの国際交流活動を推進しています。
これまでの多岐にわたる交流は、ハンガリーからも注目されており、日本でどのようにハンガリーについての教育がなされているのかを視察する際の訪問先として、城西大学・城西国際大学が1番に挙げられています。

ショーヨム・ラースロー大統領が来学

ショーヨム・ラースロー大統領と

学生の質問に答える大統領

2009年12月3日、ハンガリー共和国のショーヨム・ラースロー大統領閣下が、本学紀尾井町キャンパスをご訪問され、特別講演および学生たちとの交流が行われました。

大学に到着された大統領は、最初に、水田宗子理事長や本学理事・諸先生方とご懇談されました。観光学部の学生たちが、おもてなしのお茶をハンガリー語とともに出すと笑顔で応じられました。

水田理事長からは、大統領の来学を歓迎し、本学とハンガリーとのこれまでの交流の紹介、ハンガリーの元大使お二人が本学客員教授を務めておられ、ハンガリーの歴史や文化も教育していること、大統領来学を記念しての奨学金の創設の発表、そして、本日いただくご講演が、新しい時代を構築しつつある日本にとっても非常に示唆深いものと楽しみにしていますと挨拶がありました。

大統領は、大学は私の本来いるべき場所という気がして大変うれしいです。日本・ハンガリー友好140周年記念という節目の年にいただいた奨学金は忘れられないものとなりました。城西大学には、これからの両国交流のモデルロールとなってほしいですし、また個人としても今後、城西大学とハンガリーとの交流促進をサポートしていきたいとお話になりました。

大統領の特別講演は「法による革命：ハンガリーの民主化から20年」と題し、民主主義体制への移行時に法学者として市民運動に積極的に関与し、憲法裁判所の設立及び初代長官として活躍されたご自身の経験を基に、大変興味深い講演をお聞かせいただきました。講演後は、両大学の学生から活発な質問があり、大統領は、その一つ一つに丁寧に答えられました。

講演後は、場所をカフェに移し、学生との交流会にご参加。大統領は、この交流会を大変楽しみにしておられたとお聞きしました。交流会には、ハンガリー語履修学生、ハンガリーへの短期研修参加学生、ハンガリーへの日本語インターンシップ参加学生、ハンガリー人留学生など20数名が参加し、ハンガリーに関する質問をはじめさまざまな質問がなされ、和やかな雰囲気で予定時間を超えて歓談が行われました。最後には、大統領からハンガリー語教材の贈呈を受け、本学学生からも記念品が大統領に渡されました。本学図書館に寄贈された大統領のご著書には学生がお願いして、サインもいただきました。

・水田ハンガリー奨学金の設立

水田ハンガリー奨学金は、ショーヨム・ラースロー大統領来学を記念し、経営、観光、環境、国際文化、ITなどの分野でハンガリーから本学へ留学する学生に対し、学費、渡航費、滞在費等の支援を行うもので、この奨学金を利用してより多くのハンガリー人留学生が本学で学ぶことを願い、設立いたしました。

2009年12月3日に、第1回の水田ハンガリー奨学金設立の発表を行い、水田理事長からボハール駐日大使へ目録贈呈が行われました。

水田ハンガリー奨学金の贈呈

ハンガリーとの交流（次世代育成・グローバル教育）

ボハール駐日大使の特別講演

ライブ中継によるハンガリーとの学生交流

2009年6月4日、紀尾井町キャンパスホールにて、ハンガリー共和国駐日全権大使のボハール・エルヌー氏およびハンガリー政府観光局のコーシャ・バーリン・レイ局長による特別講義を開催しました。これは、城西大学が2008年度から第二外国語選択科目としてハンガリー語の講義を開設し、2009年度は200名を超える学生が履修して国内最大級の規模となっていることに大使が感激され、実現したものです。

ボハール大使からは日本とハンガリーとの交流の歴史についてハンガリー語で講義いただき、コーシャ局長からはハンガリーの観光資源等についての講義が行われました。ハンガリー語を学ぶ学生や、観光学部の学生にとって大変興味深い内容でした。

講義と同時に、学術交流提携校であるブダペスト商科大学とホールをライブ映像でつなぎ学生同士の交流も行いました。城西大学からはハンガリー語履修生、現代政策学部のハンガリー研修参加学生など約80名、城西国際大学からはハンガリー研修参加予定の観光学部生など約80名が参加しました。

「ハンガリーとトランシルヴァニアの民話・フォークロア」開催

ヴィシュキ氏の講演

ハンガリーの民族舞踊

2009年7月4日、紀尾井町キャンパスホールにて、「ハンガリーとトランシルヴァニアの民話・フォークロア」（ハンガリー文化センター主催、日本・ハンガリー国交回復50周年記念イベント）を開催しました。

当日はハンガリー大使館のアルベルト一等書記官をはじめ多数のお客様をお迎えし、ホールは満席となりました。第一部では、ハンガリーの作家、詩人、演出家であるヴィシュキ・アンドラーシュ氏により、民話の演劇的アプローチとフォークロアというテーマで大変興味深い講演をしていただき、第二部では、国内愛好家団体によるハンガリー舞踊と民話朗読の公演で楽しいひと時を過ごしました。終了後にはカフェにて交流会を開催しました。

水田理事長はヴィシュキ・アンドラーシュ氏と歓談し、同じ文学者同士として、文学、異種婚、民話などさまざまな点から話が広がりました。

講演会においては、ヴィシュキ氏の生い立ちそのものが、ハンガリー、ルーマニア、オーストリア三国と深いかかわりを持ち、多くの筆舌に尽くし難い苦難を乗り越えて来られた方であるだけに、その講演の内容はとても感動的で、また三国との関係では日本ドナウ交流年プロジェクトとしてもふさわしい講演になりました。

第２部では、ハンガリーの民話とフォークロアに深くかかわってきた日本側の愛好者の方たちが舞台に上がって楽器演奏やバラエティに富んだ民族舞踊などの成果を披露し、あたたかくまた身近なものに感じられる国際交流ができました。

城西大学から、現代政策学部の3年生と2年生のうち、2008年にハンガリーへの短期研修へ参加した学生と、2009年秋に実施する研修へ参加予定の学生が20名近く参加しました。

ハンガリーとの交流（次世代育成・グローバル教育）

ハンガリー共和国教育文化大臣のヒッレル・イシュトヴァーン氏が来学

2009年9月17日、ハンガリー共和国教育文化大臣のヒッレル・イシュトヴァーン氏が紀尾井町キャンパスを訪問され、城西大学の森本学長をはじめ先生方やハンガリー語を学ぶ学生たちと懇談されました。学生は城西大学現代政策学部のハンガリー研修参加予定者など10数名と城西国際大学大学院に在学中のハンガリー国費留学生ハラスティ・ジャネットさんが参加し、大臣とハンガリー映画や、若者のファッションについてなどとても和やかな懇談となりました。

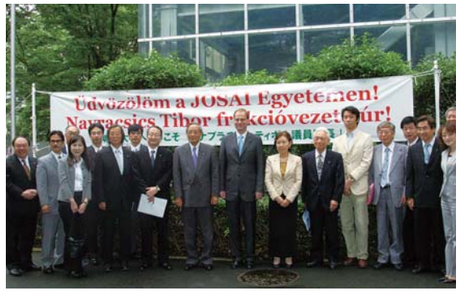
ハンガリーについて学ぶ学生たちと

城西大学では2008年度から第二外国語としてハンガリー語の講義を開設し、また、城西大学現代政策学部および城西国際大学観光学部では、3年前からハンガリーへの短期研修を実施するなどハンガリーと着実な交流を続けています。本学における両国間の学術文化交流に対して、大臣から感謝の言葉をいただきました。

ハンガリー国会議員団長が城西大学を視察

2009年7月9日、外務省の招待で来日されているハンガリーの国会議員、ナブラチチ・ティボル氏（フィデス議員団長：フィデスはハンガリー最大野党。議員団長とは、日本の国会内議員会派の長に相当する高職）が、城西大学を視察されました。

一行はハンガリー語の授業を視察されたほか、ハンガリー語履修者を対象に「ハンガリーの現状について」と題した講演をしてくださいました。



城西大学にて

ティボル氏は、学生からの「日本の魅力は？」という質問に対して、「民主主義であること、政治的、経済的な安定感は世界でも屈指である」と答え、「日本を高く評価しています。また、非常に難しいとされているハンガリー語を、多くの学生が学んでいることに感銘を受けました。将来、日本とハンガリーを結ぶ架け橋として活躍されることを期待します」と学生に対して激励くださいました。

ブダペスト商科大学と協同研究発表会

2009年11月19日、2007年に両校の間で学術交流協定が締結され、すでに幅広い交流がなされているブダペスト商科大学において、水田三喜男奨学金を受け、ブダペスト商科大学を訪問している城西大学の学生たちと、ブダペスト商科大学の学生たちとの協同研究発表がありました。

両学の学生による協同研究発表

日本語と英語での発表で、日本とハンガリーの若者たちの文化についての比較考察がよくなされ、短期間でありながら、両大学の学生たちが力を合わせて発表の準備に取り組んだ様子がうかがえました。終了後のパーティで、学生たちは、この研修に参加して非常に刺激を受け、もっとハンガリーの言葉や歴史、そして英語を勉強したいと熱く語りました。

ハンガリーとの交流（次世代育成・グローバル教育）

城西大学理学部尾崎理沙さんが「ハンガリー語スピーチコンテスト」で第2位！

日本ハンガリー友好協会等主催「ハンガリー語・日本語スピーチコンテスト」が2009年9月21日に青山学院大学で開催されました。今回のスピーチコンテストは、2009年が日本とハンガリーの国交樹立140周年・国交回復50周年であることを記念して開かれたものです。ハンガリー語コンテストには、大阪大学のハンガリー語専攻学生をはじめ、友好協会や独学で学ぶ方など初級部門6名、上級部門7名が出場しました。

尾崎さんのスピーチ

城西大学のハンガリー語履修者からは、理学部1年の尾崎理沙さんが初級部門に出場し、見事2位に入賞しました。尾崎さんは、4月にハンガリー語を学び始めたばかりとは思えない丁寧な発音とイントネーションで、授業のこと、ハンガリーに行ってみたいことなどをスピーチし、駐日ハンガリー大使館のアルベルト・ヤーノシュ領事、青山学院大学の羽場久美子先生、大阪大学の岡本真理先生など7名の審査員から高い評価を受けました。

尾崎さんら各部門上位3位までの入賞者は、9月26日に東京のロイヤルパークホテルで開催された「日ハ友好・全国交流のつどい」（主催：2009年日本・ハンガリー国交回復50周年記念事業実行委員会・日本ハンガリー友好協会）に招かれ、駐日ハンガリー大使ボハール・エルヌー氏から表彰状と賞品を授与されました。

2009年日本・ハンガリー国交樹立140周年記念／城西国際大学ジェンダー・女性学研究所プロジェクト
[近代化と女性の手仕事展]　Tradition and Inspiration 伝統とインスピレーション 東と西の出会い: 藍が結ぶ日本とハンガリー

城西国際大学ジェンダー・女性学研究所では、共同研究プロジェクトの一つとして「女性の手仕事」をテーマに、日本をはじめアジア・アフリカの諸地域で、従来女性の仕事とされてきた染織・衣服製作などの手仕事が、近代化によってどのように変化し、女性の地位と役割が変わってきたかを調査・研究しています。

水田ホールでの展示

日本とハンガリーが国交を樹立して140周年の2009年は、ハンガリーと日本の女性の手仕事に焦点を当てました。2009年10月31日～11月2日、城西国際大学において日本の女性の手仕事の一つである藍染作品とともに、ハンガリーのモホリ=ナジ芸術・デザイン大学のテキスタイル作家、および学生たちによる藍染作品を展示しました。

ハンガリー有数の芸術大学であるモホリ=ナジ芸術・デザイン大学では、「藍染」学生プロジェクトを開設し、制作をとおして、伝統的な技術を再解釈し、現代デザインと融合させる試みを行っています。このプロジェクトからは、斬新、かつスケールの大きな作品が生まれています。

アジアから欧州へ伝えられた藍染は、ハンガリーにおいて、17世紀にドイツ移民の伝統文化として広がりました。そして現在では、伝統的なテキスタイル・アートとして認められています。

ハンガリー
モホリ=ナジ芸術・デザイン大学の作品

日中女性学会議開催

パネルディスカッションの様子

2009年12月2･3日に城西国際大学で日中女性学会議を開催しました。この会議は、2007年12月に中国広州市の華南師範大学で開催された「日中国交正常化35周年記念 日中女性学会議」に続いて、城西国際大学を会場に開催したもので、姉妹校である華南師範大学から多くの研究者を招いて行いました。

女性学会議の全体テーマが「少子高齢化とジェンダー・女性学研究」であることから千葉県男女共同参画推進連携会議、株式会社大林組、高砂熱学工業株式会社から後援をいただきました。

日本と中国は、現在共に未曾有の少子高齢化社会に突入しており、少子高齢化社会におけるジェンダー問題としては様々なテーマが考えられます。中でもとりわけ、介護における女性の弱者化の問題、低賃金労働者としての女性の扱い、家庭内労働に頼ってきた介護の社会化、国民年金、健康保険制度の充実等々、多様な視点からの議論が不可欠です。日本と中国のようにこれからのアジア、そして世界の経済や文化に大きな役割を果たす国のジェンダー格差解消への取り組みは、21世紀世界の方向性を導く重要な指針となることを信じています。

基調講演は両大学から行い、王広維先生（華南師範大学政治与行政学院教授／女性研究センター長）が「中国における出生性比の不均衡とその社会問題」、城西国際大学からは原ひろ子先生（人文科学研究科女性学専攻客員教授）が「グローバル化と人間の移動・人口構造の変化の中における女性学・ジェンダー研究」と題して行いました。

午後には、「ジェンダー平等と教育」「表現と文化」「労働と家族」の3つの分科会に分かれて、相互の研究について発表と意見交換を行いました。

本会議での、日中の両大学の女性学者による少子高齢社会における格差解消を目指した分析と論議が、有意義な成果を生み、さらなる国際研究の発展に繋がっていくことを心から願っています。

メディア学部主催
映画・映像国際ワークショップ開催

海外から参加した研究者たち

2009年5月23日、東京紀尾井町キャンパスにおいて、城西国際大学メディア学部主催の、映画・映像に関する国際ワークショップを開催致しました。

このワークショップには、世界各国から約250名の参加があり、26のパネル・ディスカッションを企画しました。日本・アジア映画に関することを中心に、アニメやロシア映画などさまざまなテーマのパネルが組まれ、発表者は、計150名にものぼりました。

城西国際大学からは、女性学の分野より、"Women's Representation, Women Filmmakers"と題し、モデレータとして和智綏子教授、4名の発表メンバーが、ジェンダーの視点で、映画・映像を捉えたユニークな発表を行いました。発表後、熱心な受講者から、多くの質問が寄せられていました。

このワークショップ開催により、アメリカをはじめとする世界各国の映画・映像研究者と親しく交流でき、大きな成果を収めることができました。

豊かでユニークなメディアカルチャーを持つ日本において、今後、日本・アジア映画研究の拠点として、活動・交流の場となるよう、日本発の映画研究発信をメディア学部から積極的に行っていきたいと考えています。

学会・シンポジウムの開催（次世代育成・グローバル教育）

「日本／東アジア映像研究センター」を設立

2009年5月、SCMS（アメリカ映画メディア学会）設立50周年を記念し、城西国際大学主催による「映画・映像国際ワークショップ」が開催され、世界各国から、日本・東アジア地域の映画・映像に関する研究者が一同に会し、大きな研究成果を収めました。豊かでユニークなメディアカルチャーを持つ日本において、今後も日本・アジア映画研究の拠点として、国際的な映像メディア学研究の活動・交流の場となるよう設立されたのが「学校法人城西大学　日本／東アジア映像研究センター」です。

本センターは、日本と東アジア地域の映画・映像・演劇文化の調査研究および、国際シンポジウムの開催を行い、国際的映像メディア研究者の交流促進事業を積極的に展開します。国内外の日本映画研究者による定例研究会や、本センター企画によるシネマテークを定例的に主催し、日本・東アジア映像研究者のための、日本における研究拠点としての事業を行います。

また本センター企画による公開講座を実施し、地域社会へ日本・アジア映画の研究資産を還元すると共に、映画産業界、官公庁等の外部機関との共同研究、産学協働による映画・演劇作品の制作・公開や、日本・海外のフィルムセンターとの相互交流など、他に例のないユニークな活動を通じて、日本・東アジア地域の映像文化の発展に寄与する役割を果たし、その遂行に資する人材の育成に努めていきます。

大きく変貌しつづける日本と東アジアの未来を見つめ、その映画・映像文化の発展に貢献しうる実践型の研究・教育活動を果敢に追究していきたいと考えています。

日本・東アジアの現状と展望
～映画『スパイ・ゾルゲ』をめぐって～

篠田監督と佐藤忠男さんの対談

2009年11月20日に「日本／東アジア映像研究センター」設立記念シンポジウムが、東京紀尾井町キャンパスにたくさんのお客様をお迎えして開催されました。

メイン会場であるホールでは、第一部『スパイ・ゾルゲ』（篠田正浩監督）の上映、第二部では著書『河原者ノススメ―死穢と修羅の記憶』を上梓したばかりの名誉所長、篠田正浩監督が登壇し、アジアを西洋と東洋、どちらの視点から捉えるか、といった問いかけから「日本／東アジア映像研究センター」設立の意義が語られました。続いて成瀬活雄所長（メディア学部教授）より、映像文化の研究の拠点、そして映像作品の制作拠点としてのセンターの今後の活動方針が明らかにされました。

第三部では、初の顔合わせとなる篠田正浩監督と佐藤忠男氏の対談を中心に、成瀬活雄所長と村川英研究員（メディア学部教授）が司会進行をつとめ、「日本・東アジア映画の現状と展望」について映画『スパイ・ゾルゲ』を一つのテクストとして、アジアと映画についての考察が繰り広げられました。

また、このシンポジウムに合わせて、プレゼンテーションルームでは、「日本／東アジア映像研究センター」の第一回制作作品である『ドン・ロドリゴの来た道』（竹藤佳世監督・JIU准教授）を上映しました。この映画の制作現場には、メディア学部から学生15名が出演者として、また制作、撮影、照明、録音のスタッフの一員として携わりました。動き始めたセンターの活動がわかるシンポジウムとなりました。

アジアでの交流と支援（次世代育成・グローバル教育）

大連理工大学へ、“水田三喜男記念”水田宗子奨学金の授与

“水田三喜男記念”水田宗子奨学金を授与

2009年6月3日、中国大連理工大学において、“水田三喜男記念”水田宗子奨学金の授与式が行われ、水田宗子理事長より、選ばれた大連理工大学の学生たちに奨学金を授与しました。

水田宗子理事長は、学業にいっそう励み、将来、日中友好のために大いに活躍できる人材として育ってほしい。両大学の末長い友情を期待して本奨学金を授与したいと挨拶されました。

奨学金授与式に引き続き、水田三喜男記念文庫第5次寄贈式が行われました。今回は、水田三喜男先生関連図書、政府系白書の最新版、城西大学・城西国際大学の紀要最新版など計40冊を寄贈し、大連理工大学管理学院の蘇敬勤院長に寄贈目録を手渡しました。

今回の訪問では、張徳祥党委書記・校務主任と水田理事長が初めて会談し、会談の冒頭、今回で第5回となる水田三喜男記念水田宗子奨学金・水田記念文庫寄贈に対して、張党委書記より水田理事長へ謝辞が述べられました。また、共同研究、教員の相互訪問、学生の相互短期研修、ＪＭＢＡ（デュアルディグリー）プログラムなどにおいて、緊密で、成果をなす交流となるよう、取り組みを強化することが確認されました。

城西大学JMBAスカラーシップ奨学生授与式

スカラーシップの授与

2009年5月19日に城西大学JMBAスカラーシップ奨学生授与式が本学東京紀尾井町キャンパスで行われました。

この奨学生制度は、大連理工大学管理学院から、本学JMBAプログラムに参加する留学生（毎年5名）を対象に、本学大学院経営学研究科での1年間の勉学を奨励し、留学生の経済的支援を目的として設置されました。

2009年度のスカラーシップ授与は徐瑶さん（大連理工大学MBA）、孟雪蓮さん（瀋陽の欧州系ホテル勤務）、候中華さん（中国最大の動画制作会社勤務）、宋媛媛さん（大連の碍子会社勤務）、于淼さん（米国系BPO企業勤務）の5名が選ばれました。

授与式では、水田理事長をはじめ、城西大学学長、各学部長、研究科長など多数が出席し、この5名の留学生に対し、本スカラーシップが授与されました。本スカラーシップの初めての奨学生となった5名の代表として徐瑶さんが、「スカラーシップを授与された名誉を忘れないように、また先生方の期待を裏切らないように、JMBAの開拓者として、自分を磨いていくつもりです。そして、一年間の期間の後、自信をもって、学んだことを報告させていただくことができるよう、がんばります。」と決意と今後の意気込みを語ってくれました。

この城西大学JMBAプログラムは、2009年2月に、学校法人城西大学と大連理工大学管理学院との間で、「1＋1」のデュアルディグリープログラムに関する協約が締結されて始まりました。このプログラムにより、城西大学と大連理工大学の両方の修士の学位を取ることができます。日本からも、中国ビジネスに興味のある多くの方々に、このプログラムに参加してほしいと願っています。

同窓生との連携（次世代育成・グローバル教育）

同窓生が大きく支える箱根駅伝

6位でゴール

城西大学男子駅伝部が2004年第80回箱根駅伝に初めて出場して以来、母校の名誉を背負って箱根路を走る後輩のために、同窓会が中心となって応援団を編成し、毎年たくさんの同窓生が応援に参加しています。

同窓会では大学の学生部と協力して、コース上の支部である神奈川県支部・東京支部および関東近県支部に呼びかけ、東京支部から、大手町・品川駅前などへ約30人、神奈川県支部から、横浜駅前・藤沢(松下政経塾前)・小田原などへ約30人、ほかに関東近県支部(埼玉中央・埼玉東上・埼玉東部・埼玉新都心・埼玉県央・群馬県支部・山梨県支部・静岡県支部)からも約70人が応援に参加しています。

応援活動では、同窓会で作成した大学ロゴ入りの青いコートを着用し、応援旗をたてて選手を盛りたてています。応援グッズとして、2007年には手ぬぐいとジョーくんせんべい、2008年にはベンチコートと大学名を入れたエコバッグ、2009年にはスクールカラーの黄色でそろいの手袋を作成しました。

駅伝への出場に対しては、大学のある坂戸駅北口商店街に「祝　箱根駅伝出場　がんばれ城西大学」と書かれた旗や横断幕が掲げられ、商店街あげての応援をいただいています。

箱根駅伝に加えて、全日本大学女子選抜駅伝、全日本大学女子駅伝対校選手権大会などでも、開催地に近い同窓会支部が中心となって毎回応援をしています。

城西大連学友会発足式を開催

学友会会長の郭さんが決意を述べる

2009年7月27日、東京紀尾井町キャンパスにおいて、城西大連学友会の発足式が開催されました。

これは、大連市の大学、大学院から城西大学と城西国際大学へ、学術協定に基づいて留学している学生たちによる組織で、学術文化の向上、会員相互の親睦をはかるとともに、国際ネットワークの形成と後進の支援を活動の目的としています。また、その活動によって、本学とそれぞれの出身大学とにおける持続的発展と交流の推進をめざすものです。

発足式は、本会の名誉会長でもある水田宗子理事長のあいさつで開始され、その後、同じく名誉会長の村井隆先生から、これまでの城西国際大学と大連との関係、また日本と大連の関係の重要性・親密さについてお話頂きました。

さらに、本会の顧問をお引き受けいただいた大連理工大学外国語学院長、杜鳳剛先生より、学友会の学生たちに向けて激励とお祝いの言葉をいただきました。この学友会の初代会長となった郭錫さん（大連外国語学院から城西国際大学へ留学）が発足に関する感謝と今後の活動に対する決意を述べました。

中国大連からの留学生は毎年増えており、今後の城西大連学友会の活動が期待されます。

学友会のマーク

U.S.-JAPAN WOMEN'S JOURNAL（日米女性ジャーナル）／Review of Japanese Culture and Society 出版活動

日米女性ジャーナルは1988年、日米間を中心に他地域を加えたグローバルな視点に立ったジェンダー研究の学術交流、情報交換を目的として創刊されました。以来、女性問題、男性問題、家族、労働、社会問題、文化研究等、幅広い分野をカバーし、学術論文、時事問題、インタビュー、資料等を掲載しています。これは英語で発行されており、日本のジェンダー研究・情報の海外への紹介、海外での日本研究の普及、日米比較研究の奨励を目的としています。

同じくReview of Japanese Culture and Societyも1986年から英語で発行されており、この2つの英文誌は、海外へ日本の文化・研究を紹介するのに大きな役割を果たしています。

JICPAS publishes two kinds of English language journals, U.S.-Japan Women's Journal and the Review of Japanese Culture and Society. The U.S.-Japan Women's Journal aims to exchange scholarship on women and gender between the U.S., Japan and other countries while the Review of Japanese Culture and Society is devoted to the scholarly examination of Japanese art, literature, and society. Both journals welcome contributions from experts on Japan.

◆ U.S.-Japan Women's Journal　http://www.josai.jp/jicpas/usjwj/index.html
◆ Review of Japanese Culture and Society　http://www.josairjcs.com/

城西国際大学 国際人文学部国際文化学科 主催 高校生小論文コンテスト《世界の中の日本》を書こう

最優秀賞の小山紗也加さん（大阪教育大学附属高等学校）

2009年は、日本が1859年に初の国際貿易港を横浜に開港してから、ちょうど150年目にあたります。

「国際」そして「世界」といったキーワードを軸に、「日本」「欧米」「中国」「韓国」を学びの柱としている城西国際大学国際人文学部国際文化学科では、この節目の年に、小論文コンテストを開催しました。ものを考え、それを簡潔な文章でひとに伝えることで、互いの気持ちを共有したり理解しあうことは、社会生活でも文化の創造の上でも欠かせないことです。世界で起きることが瞬時に分かるようになった現在にあって、21世紀を担う高校生のみなさんは、「世界の中の日本」をどのようにとらえているのでしょうか。

小論文コンテストにはたくさんの高校から応募があり、最優秀賞には大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎1年生の小山紗也加さんが中国上海へ旅行した体験をもとに、日本と中国を比較し、両国の良い点、悪い点を客観的に分析した『日本の心』が選ばれました。

審査委員長で、詩人の吉増剛造先生は、応募作品には、いまの世の中の途方もない進化と絶えざる拡張が鏡のように映し出されていると講評しました。

入賞作品集

文化・出版を通しての貢献（次世代育成・グローバル教育）

2009年度水田美術館の展覧会・講演会

水田美術館における2009年の活動をご紹介します。
地域に根付いた美術館として、今年度も多くの方にご来場いただきました。

◆浮世絵に見る子どもの情景　公文浮世絵コレクション・水田コレクションより

会　　期：4月2日（入学式）、7日（火）～25日（土）
特別協力：公文教育研究会
協　　力：和洋女子大学文化資料館
内　　容：　子どもたちが主題となった浮世絵は、市井の生活が生き生きと描かれ、浮世絵のなかでも風俗資料としての価値は高い。この展覧会では、母子の愛情あふれる情景を中心に、生活の中での学びや遊び、玩具、通過儀礼や行事など、江戸時代の子どもの成長にともなう様々なシーンを浮世絵によって紹介。
　福祉総合学部子ども福祉コース（主として保育士養成）を開設する大学として、本展が子どもをとりまく社会環境を楽しみながら知る機会となり、特に学生にとって現代に活かすヒントとなれば幸いである。
関連企画：（1）福祉総合学部講演会　4月24日（金）
「少子化社会における子ども観」
講師：加藤朋江氏（本学福祉総合学部助教）
（2）ギャラリートーク（当館学芸員による展示解説）　4月11日（土）

◆忠臣蔵　近代木版画でたどる物語

会　　期：6月9日（火）～7月4日（土）
内　　容：　大正10年に刊行された『義士大観』は、忠臣蔵の物語にそって描いた当時の代表的な画家80名余りによる木版画に、解説と文化人による賛が付された豪華本である。本展では、その中から34図を厳選して紹介し、あわせて江戸期の浮世絵より忠臣蔵名場面シリーズ12点を展示。
関連企画：（1）ギャラリートーク（当館学芸員による展示解説）
6月20日（土）、27日（土）

◆生誕100年記念展　銅版画の巨匠　浜口陽三

会　　期：9月1日（火）～10月3日（土）
特別協力：ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション
内　　容：　カラーメゾチントの生みの親としてしられる国際的な銅版画家、浜口陽三（1909～2000）は、銚子の醤油醸造業の家に生まれ、幼年期を同地で過した千葉県にゆかりのある作家。本展では、初期作品から晩年作まで、静物を題材に詩情豊かで精神性の高い作品を作りつづけた浜口の軌跡を紹介、あわせて、道具類を展示して銅版画技法とその高い技術を解説。
関連企画：（1）講演会9月12日（土）
「浜口陽三を語る　人と作品」
三木哲夫氏（国立新美術館特任研究員）
（2）ギャラリートーク（当館学芸員による展示解説）
9月19日（土）

◆水田コレクション浮世絵名品展　特集 美人画

会　　期：10月31日（土）～11月21日（土）
内　　容：　浮世絵に描かれた美人は当時の理想像であり、時代の流行とともに変化していった。菱川師宣が描く下膨れの顔立ち、鈴木春信の華奢な容姿、鳥居清長の八頭身、喜多川歌麿の現実味のあるスタイル、そして幕末の退廃的な美人へと続く。本展では、新収蔵品の鈴木春信《六玉川》をはじめ、師宣、宮川長春、葛飾北斎などの肉筆画、清長、歌麿、月岡芳年などの版画、さらに伊東深水などの近代絵画を展示し、美人画の変遷をたどる。

棚田（大山千枚田）プロジェクト展開

田植えをする学生たち

城西国際大学観光学部では、より実践に即した学びのフィールド を通して、ウェルネスツーリズムへの幅広い理解と温かみのあるホスピタリティを身につけるプロジェクトを展開しています。

キャンパスのある鴨川市には、日本の棚田百選にも選ばれた鴨川市大山地区の「大山千枚田」があります。美しい棚田ですが、耕作放棄が進み、担い手が不足しています。

観光学部では、大山千枚田保存会が主催する「棚田トラスト」に参加して棚田の一部をかりて、実習の場とすることで棚田や周辺の里山の保存活動をおこなっています。観光学部の学生たちは、1年を通して田植えから、草取り、稲刈り、収穫祭などを実施しています。2009年は5月9日に田植えをし、9月10日に収穫を行いました。天水のみの棚田であることから機械化された農業とは違う経験ができることや、何より里山の景観保全にどのような努力が必要かなどを体験します。

房総の伝統芸能を紹介するプロジェクト展開

木更津ばやし

北風原の羯鼓舞

南房総にはそれぞれの地域に古くから伝えられてきた伝統芸能が多く残っています。それらは、豊作祈願や、悪魔払い、神様を迎え、共に同じものを食べて神の力をいただくことなどを目的とし、それぞれの地域特性、文化特性を持って受け継がれています。その特徴をまとめると次のようになります。

1.地形上の特性から旱魃が起きやすいところから、「雨乞い」を主体とした祭りが多い。他には悪魔払い、疫病退散、五穀豊穣、大漁祈願、海上安全などを祈願。
（賀茂神社祭礼、北風原の羯鼓舞、忽戸の三番叟）

2.江戸に近いところから、江戸の庶民芸能が取り入れられた例が多い。
（加茂の花踊り、白間津のささら踊り、村歌舞伎、子供歌舞伎、三番叟など）

3.都市圏に近い割には、古いしきたりを維持しているものが多く、多様性もある。
（茂名の里芋祭り、飽富神社の筒粥、白間津のオオマチ）

城西国際大学観光学部では、南房総地域の伝統芸能を有用な観光資源と考え、これらを調査し他地域の芸能との比較や今後の保存方法を研究しています。また、『房総の伝統芸能』というWEBサイトを作成し、それぞれの開催場所や開催時期、交通アクセスなどを実際の写真とともにまとめ、これらの伝統芸能が千葉県の観光資源として活用できるよう取り組みを進めています。

◆房総の伝統芸能　http://www.jiu.ac.jp/tourism/bosodento/

房総地域（次世代育成・地域活性化）

嶺岡（みねおか）林道に桜を植樹

シダレザクラを植樹

城西国際大学観光学部では、平成21年度の記念行事として、2009年4月25日、鴨川市の嶺岡中央林道及び曽呂尋常小学校分教場跡地にて桜植樹式を行いました。水田宗子理事長、観光学部・福祉総合学部の新入学生、片桐鴨川市長・本多前鴨川市長をはじめ観光学部を日頃より支えていただいている観光学部協力会の皆様、鴨川市曽呂小学校の児童、ボーイスカウト・ガールスカウト団など、約200名の方にご出席いただきました。これまでの活動により、嶺岡中央林道の桜並木が蘇りつつあります。今年は、ソメイヨシノやシダレザクラなどを植樹しました。

嶺岡林道 桜並木修復プロジェクト

大学では、先人たちの想いを継いで、2006年に「嶺岡林道桜並木修復プロジェクト」を立ち上げ、観光学部の学生たちが修復活動をはじめました。30年の時を超えてつながった並木修復プロジェクトは、外房と内房をつなぐ生活道路である嶺岡林道の歴史を調べ、その周辺に残された自然や文化について学び、環境について考え、そして地元のみなさんとともに植栽や桜の手入れ、下草刈りなどを進め、並木を後世に伝えていくことを目的としており、鴨川観光協会長や千葉県議会議員のほか企業からも後援をいただいております。

今後、私たちは「嶺岡林道桜並木」を鴨川市の新たな名所に育てる計画です。

◆嶺岡林道桜並木修復プロジェクト　http://www.jiu.ac.jp/sakura/

第1回水田宗子杯女子ソフトボール大会

緊張感ある接戦

優勝した敬愛大学八日市場高等学校

2009年8月29日・30日に城西国際大学東金キャンパスグランドにおいて、「第1回水田宗子杯女子ソフトボール大会」兼「第48回東房総地区高等学校女子ソフトボール大会」が開催されました。

本学は地域に根ざした総合大学として、様々な形で社会に貢献できる人材の育成に努めています。スポーツ活動を通じた人間形成がより一層の地域や社会の活性化につながることを期待して今回水田宗子杯が設けられたものです。

本学で開催されるはじめての大会でしたが、参加した9校による試合は、いずれも非常にレベルの高いものとなりました。特に決勝戦では、敬愛大学八日市場高等学校と成田国際高等学校が白熱した接戦を繰り広げ、1点差で敬愛大学八日市場高等学校が優勝を飾りました。

遠方の福島県より参加したいわき光洋高等学校も3位と好成績を挙げました。栄冠に輝いた敬愛大学八日市場高等学校には水田宗子理事長から優勝杯と楯が贈られました。

文化財修復・保存（次世代育成・地域活性化）

水田三喜男生家を修復、保存～そして文化財登録へ

・水田家の由来

旧水田家がある旧曽呂村(鴨川市)は、嶺岡山脈の南麓を東から西へ通じる道を中心とした五百戸余りの山村で、嶺岡山は、わが国酪農の発祥地として知られています。

江戸時代からこのあたりでは毎年5月、大変なにぎわいの中、馬捕りの行事が行われており、そこに幕府の役人が来て牛馬を見定めする場所を陣屋と称しましたが、庄屋のような役割を果たし、村の指導的立場にあった水田家は、この陣屋と地続きとなっていました。また、江戸後期につくられたこの家は、大正12年の関東大震災でも近隣の建物がほとんど崩壊した中でも、無事に残りました。

・旧水田家住宅の特徴

「重厚な長屋門の入口が額となって、茅葺の寄棟造の母屋が望まれる。東側を土間とし、囲炉裏を切った15畳の座敷を中心に、5室からなる豪農の家である。西側に縁側をそなえ、南面に瓦葺の下屋を差し掛けた房総民室の特徴を示している。

長屋門の左右には、それぞれ牛小屋が置かれ、かつて嶺岡牧場と関わる酪農を営んでいたことを物語っている。

これら母屋、長屋門は、優に百数十年以上経て居り、貴重な文化財として、文化庁に登録されているが、篤農の堅実さと、安房特有の進取の気象の見事な結晶といってよい。また、この家屋の一隅にある書斎から、遠き潮騒を夢見ながら、ひとりの有為な青年が巣立っていった。城西大学の創立者、水田三喜男である。戦後の日本経済再建の偉業は、そのまま継承され、「学問を通じての人間形成」の理念となった。その母胎こそ、まさに、この家屋なのである。」とのコメントを城西国際大学前水田記念図書館長井上辰雄氏が寄せています。

・修復事業

この生家を、同窓生が呼びかけて、城西大学同窓会30周年記念事業として、創立者の偉業をたたえ、城西大学の建学の精神はもとより後世にその功績を伝えるため、修復・保全に取り組みました。

創立者が過ごした当時の姿を取り戻した生家では、昔の酪農家の暮らしぶりや古い建物に見える工夫を実際に目にすることができ、同窓生や学生をはじめ、留学生や地域の子供たちが数多く訪れています。また、桜やノボタン、新緑や紅葉の季節に合わせて何度も訪れる方や、遠方からわざわざいらっしゃる方もいて、平成14年に一般公開を始めて以来、毎月400名ほどが見学されています。

・文化財としての価値

平成14年に、長屋門と母屋が国の登録有形文化財として登録されました。

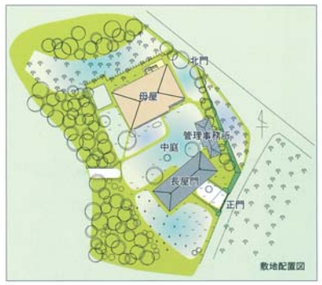
また、地域の特性や周辺の環境に充分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出したことを評価され第10回千葉県建築文化賞を受賞しています。

修復後の長屋門

母屋　内観

修復前の長屋門

母屋



◆ 旧水田家住宅　http://www.jiu.ac.jp/mizutake/index.html

建築賞受賞（次世代育成・地域活性化）

多数の建築賞を受賞しています

❖ 清光会館

1992年さいたま景観賞

清光会館は、新しい大学に求められる国際化・情報化に対応し、1992年に完成した城西大学の中枢を担うシンボリックな建物です。城西大学の学術・文化のシンボルとして、集中管理された高い機能と充実した施設・設備を誇っています。

同年、秩父の丘陵を望むその美しい外観によって埼玉県景観賞を受賞しました。

❖ 清光会館

❖ 鋸南セミナーハウス

2005年度 第12回 千葉県建築文化賞「景観に配慮した建築物」
2006年 第32回 東京建築賞建築作品コンクール「優秀賞」

鋸南セミナーハウスは創立35周年を記念して、同窓会の協賛もいただき平成16年に建設されました。

豊かな自然を取り込むための半野外空間の構成に重点を置き、木目の奥行きのある内外のリズミカルなシーンの展開により、美しいたたずまいとなっています。その心地よさと周囲の景観にふさわしい建物であることが評価され、千葉県建築文化賞と東京建築賞において「優秀賞」を受賞いたしました。

❖ 鋸南セミナーハウス

❖ 城西大学 経営学部棟

2008年 全米建築学会 Merit賞

城西大学経営学部棟は、米国建築家協会（AIA: American Institute of Architects）ニューヨーク支部より2008年度メリット賞を受賞しました。

AIAは2008年度にはじめて教育的な建物（2001年1月11日以降完成の建物）についての部門を設け、その栄えある第一号を経営学部棟が受賞しました。

❖ 城西大学 経営学部棟

❖ JIUランドスケープデザイン

1996年日本建築学会賞
2006年度日本造園学会賞

城西国際大学では、自然景観と調和したキャンパスを目指してきました。そのランドスケープデザインに対し、「端正な中にも透明感と伸びやかさ」がある「成長するキャンパス」との評価を受け、日本建築学会賞と日本造園学会賞を受賞しました。

❖ 旧水田家住宅

2003年度 第10回千葉県建築文化賞

地域の特性や周辺の環境に充分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出したことを評価され第10回千葉県建築文化賞を受賞しています。

※写真については、左ページをご覧ください。

❖ JIUランドスケープデザイン

子どもたちとともに（次世代育成）

キッズライブラリーイベント「子どもインターナショナルプレイランド」

子ども福祉コースの学生と手遊び

城西国際大学では、2008年12月に成東駅前にキッズ・ライブラリーをオープンさせました。

福祉総合学部子ども福祉コースでは、未来を担う子どもたちにこのライブラリーを窓口にして世界を知ってほしいと願い、子どもインターナショナルプレイランドと題したさまざまなイベントを始めています。

◆第1回5月16日「プルチョウおじさんの読み聞かせ」

当日は、0歳児から小学生までの子どもたち23名と保護者の皆さん13名が参加して、大変にぎやかで明るい会となりました。城西国際大学国際人文学部学部長のプルチョウ先生が、英語の絵本をわかりやすく丁寧に読んで聞かせました。

英語で描かれた2冊の絵本の読み聞かせをしたほか、子ども福祉コース２年の小田部翔太さんが保育実習指導科目で学んだ英語の手遊びや歌を披露しました。

◆第2回7月25日「ノルウェーからの留学生と遊ぼう」

ノルウェーの昔話『三びきのやぎのがらがらどん』のように、北欧の絵本は日本でもなじみの深いものです。今回はノルウェーからの留学生が絵本の読み聞かせをしてくれました。

インターナショナル子どもクリスマスパーティ

ノルウェーからの留学生と子どもたち

2009年12月21日、城西国際大学子ども福祉コースとJIU同窓会グローバルユースが共催してインターナショナル子どもクリスマスパーティを開催しました。

東金市内の保育所の子どもたちを招待して、子ども福祉コースの学生、ノルウェーからの留学生、劇団「花かご」とで、盛大に実施しました。

保育所の子どもたちは、ノルウェー語で「三匹のやぎのがらがらどん」を聞いたり、劇団「花かご」の人形劇に見入ったりして、楽しんで帰っていきました。保育士を目指す学生も子どもたちに日頃の成果を披露することができました。

石毛客員教授による少年野球教室

笑顔で指導をうける中学生

鴨川市との交流事業の一環として、鴨川市の中学生を対象とした少年野球教室が、2009年5月24日に鴨川市文化体育館で行われました。

この教室で指導にあたったのは、城西国際大学経営情報学部健康・スポーツマネジメントサブコースの客員教授で、元オリックスブルーウェーブの監督、石毛宏典先生です。市内から87名の中学生が参加し、石毛先生が直接体の動きやフォームを正したり、アドバイスをして、約3時間にわたって練習に取り組みました。

今後も地域のスポーツ振興や健康推進の活動に、積極的に協力していく予定です。

政策提言による社会貢献（次世代育成）

水田理事長　世界女性学長会議において基調講演

基調講演をする水田理事長

2009年9月16日、アジア地区の理事を務める本学水田宗子理事長が、中国伝媒大学南広学院より招待を受け、第4回世界女性学長会議に参加し、基調講演を行いました。

午前の部において、水田理事長は、伝媒大学を含めた中国多数の大学執行部、中国政府高官、ユネスコの代表、また世界各国から参加した44名の学長、多数のマスコミなど千人を超える聴衆を前にして、「高齢化社会における女性高等教育の課題」をテーマに、アジアにおける喫緊の課題について、何が問題で、いかにしてその解決をするのか、また、本学ではGPも得てすでにプロジェクト研究として解決に向けての取り組みをしていることについて、英語で講演を行いました。講演終了後には、さまざまなトップから賛意を受け、いまの話は極めて重要な提言であったので、是非原稿をもらいたいと囲まれるなど、非常に大きな反響をよびました。

午後の部では、「大学経営と環境問題」についてのパネル・ディスカッションにおいて「時代の変化に対応する大学経営と環境問題への取り組み―大学の社会的責任を果たすために―」と題した基調講演を英語で行いました。中国のみならず、世界各国の大学において、環境問題への取り組みは欠かせないものであり、それと同時にいかにそれが社会貢献に結び付くかが社会から問われているため、ここでも日本の代表としての水田理事長の話は、大きな注目を浴びました。

水田理事長　中国伝媒大学創立55周年記念式典にて基調講演

世界各国の学長とともに

2009年9月19日、姉妹校である中国伝媒大学の創立55周年記念式典に本学水田宗子理事長が招待され、基調講演を行いました。

創立55周年を記念し、「メディアとコミュニケーションにおける高等教育フォーラム―国際的対話：イノベーション、コラボレーション、アクション」と題したフォーラムが開催されました。伝媒大学は、中国の新聞、雑誌、テレビ、ラジオなど多くのマスコミ人材を輩出する伝統ある大学で、この式典にも多くの取材がきていました。

共同宣言書

世界各国から参加した学長を前に、水田理事長は、「日本の高等教育における革新」について、本学の取り組みを踏まえて大学を取りまくステークホルダーとのかかわり方、大学の運営、経営基盤の強化についての考え方、そして大学が、社会の変革者としてリーダーシップをとっていかねばならないとのスピーチを行い、その模様は、新聞とテレビを通じて、中国に報道されました。

フォーラム終了後、参加した全ての学長により、「ここに参加した世界の学長たちがスクラムを組んで、コミュニケーションを大切にしつつ、メディアの分野において、世界の変化に対応できるグループ作りに取り組もう」という共同宣言を発表し、サインがなされました。

政策提言による社会貢献（次世代育成）

城西国際大学福祉総合学部では、平成21年度文部科学省「学生支援推進事業（GP）」の採択に伴い、国際介護専門職養成センター（International Care-professionals Training Center）を設置し、国際化時代に不可欠な「介護の国際基準（Global Standards of Care）」を創出し、「介護専門職の就労促進に資する国際基準と養成プログラムの開発」に取り組んでいます。
介護就労環境の慢性的人材不足に対しては、失業者や外国人労働者による労働力補充が行われていますが、これは質の高い介護に直結せず、学生たちの就労意欲を低めています。城西国際大学では、このような現況をふまえ、介護専門職の質向上、とくに4年制大学で介護福祉コースに学ぶ学生が、国際的にも通用する高い指導力・経営力・技術力を身につけられるプログラムの開発に取り組みます。自信と自覚を持った学生が介護専門職への就労意欲を高め、また介護職へ定着することを目的とする取り組みです。

平成21年度文部科学省学生支援推進（GP）事業 国際介護フォーラム「ここから始まる千葉から変える」を開催

2009年1月24日、厚生労働副大臣長浜博行氏と内閣府参与樋口恵子氏をお迎えして、国際介護フォーラム「ここから始まる千葉から変える－日本の介護を世界に誇るために－」が開催されました。

長浜副大臣(右)と樋口恵子氏による対談

対談では、厚生労働副大臣長浜博行氏から、これからの国における厚生労働行政の行方について、とくに介護保険制度および介護・福祉人材確保等の今後の方針などが語られました。一方、市民代表として樋口恵子さんからは、自ら要支援に認定された経験から制度の複雑化が市民の負担になっている現実が語られ、もはや時代は「介護する人、される人」と二分化されて考える段階から、要支援・要介護の人が介護をする側にもなって介護保険を担うことがあるというように複合化していると報告がされました。

対談後にはフロアから、志賀直温東金市長、堀内慶三大網白里町長、戸谷久子千葉県健康福祉部長、佐藤隆志千葉県介護福祉士養成校協議会長から、それぞれの立場における介護・福祉の状況や今後についてご意見が出されました。

また、この日には福祉総合学部が募集していたマスコットイラスト「カイゴロー」の優秀作品の発表と表彰式が行われました。理事長賞に千葉県立松尾高等学校の川口彩乃さんの作品、学長賞に国際人文学部のクリスティーナ・タベットさんの作品が選ばれました。

フォーラムの最後は、市民コーラスグループ「夢のこうらす」と福祉総合学部学生とのコーラスコラボレーション、学生ボランティアサークル「スターダストキッズ」有志による手話コーラスで会場全体が一つになりました。このフォーラムを契機に、千葉から新たな介護・福祉のうねりが生まれる期待がふくらみました。

マスコットイラストの表彰式

熱心に耳をかたむける満員の聴衆

政策提言による社会貢献（次世代育成）

日中女性学会議で国際介護基準（案）を発表

城西国際大学福祉総合学部・国際介護専門職養成センターでは、文部科学省学生支援推進（GP）事業として取り組んでいる国際介護基準の内容を、12月2日に開催された城西国際大学・ジェンダー研究所主催「日中女性学会議」のパネルディスカッションで、国際介護基準（案）として発表しました。

国際介護基準（案）を発表

「日中女性学会議」のテーマセッションでは、華南師範大学の李教授から「現代中国の女性の就業特徴に対する分析」、兪教授から「中国女性の補充型養老保険の制度革新」が発表され、日本からは石田教授による「高齢社会に求められる介護の国際基準について」と松下助教による「城西国際大学における介護福祉士養成のための教育内容」が発表されました。

テーマセッションへは多くの市民の皆さんが参加され、会場のプレゼンテーションホールは補助椅子を追加しなければならないほどでした。学生たち（福祉総合学部介護福祉コース、社会福祉コース、子ども福祉コース、経営情報学部、中国・ノルウェー留学生）も、熱心な様子で発表に聞き入っていました。

日中女性学会議の最終プログラムであるパネルディスカッションで、井上学部長より国際介護基準（案）が発表されました。国際介護基準（案）は、3つの目標、6つの原則、12の方法に分類された図式によって説明されました。中国の先生からは早速、国際介護基準（案）についての質問がなされるなど関心が高く、今後はともに意見交換しながら国際基準のあり方を考えていくことになりました。

平成21年度　理数系教員指導力向上研修

独立行政法人科学技術振興横構（JST）は、文部科学省で推進している次代を担う人材への理数教育の充実に関する施策の一環として、「理数系教員指導力向上研修事業」を実施しています。この事業は、教育委員会等と大学・科学館等の連携により、科学技術、理科・数学に関して、観察・実験等の体験的・問題解決的な活動に係る理数系教員の実践的指導力の育成を図ることを目的としています。

理数科教員研修

今年度は、埼玉県立総合教育センター企画の「中学5年経験者研修教科等コース理科」が採択され、城西大学理学部化学科の教授を講師に実施しました。

中学理科教員20名を対象に、バイオテクノロジーの基本技術をテーマとして、講義「生物分野の授業への活用」、実習「口内細胞の採取とDNA調製」など丸一日かけて行いました。今回の研修で行った実験は化学科3年生が行う生化学実験のテーマを、この研修用にアレンジしたものです。

実験内容が最先端技術につながる高度な技術習得であるばかりでなく、学生を対象にして実施する際の実験計画なども研修の課題として取り入れました。参加された中学校理数の先生方は、大学3年生の実験で今回のテーマを扱うことについて、そのレベルの高さに驚かれました。また、多くの実験器具や分離・計測装置が、高感度、高精度になっていることなど、科学技術の進歩に、自身の学生時代との違いを実感したようです。

学校法人城西大学は、薬学部の卒後教育プログラムなども含め、卒業後も卒業生の指導や継続的な知識の向上、教育に取り組んでいます。

「ハンガリーとの深い国際交流に感謝」

ハンガリー共和国
駐日特命全権大使
ボハール・エルヌー氏

ハンガリーと城西大学の関係は2006年に始まりました。それ以来交流はますます深まる一方です。交流協定がブダペスト商科大学とグドゥルーのセント・イシュトヴァーン大学との間に結ばれ、ハンガリーの教授や大使が講演を行い、更にハンガリー共和国大統領、教育文化大臣も貴校の東京キャンパスを訪問しました。

城西大学、特に水田理事長や並河克彦理事長補佐は、ハンガリーの文化を広めることにも多大な貢献をして下さっています。皆様のご協力により、ハンガリーの作曲家の作品を演奏するコンサート、ハンガリーの伝統的楽器の演奏、またハンガリー人の音楽家による数多くの演奏会が実現されました。また、大学でハンガリーの民族工芸品や民話・フォークロアが紹介される展示会や講演も大変高い評価を得ました。2007年には城西大学からも支援を受け、ハンガリー文化センターが東京に設立されています。

城西大学理事長をはじめ、皆様は我々の国に特に注目していただき、また様々なイベントを通じてハンガリーを日本の若者に紹介することだけではなく、さらに大学の授業では、興味を示している学生のために我々の母国語であるハンガリー語を学ぶ機会を設けていただいていることを大変嬉しく思っております。就職にも役立つことと思い、これからますます多くの学生がハンガリー語を学ぶように願っています。ハンガリー大統領の2009年の訪問を機に、今後毎年5人のハンガリー人の学生が城西大学で1年間留学できるように水田ハンガリー奨学金が提供されることになりました。このようなハンガリー人留学生との楽しい大学生活を通じて、ハンガリー語を一生懸命に学びたいという気持ちをますます強くし、ハンガリーをもっと深く知りたいというふうに皆様に刺激を与えることを願っています。

「観光人材育成への期待」

社団法人
日本ホテル協会
会長
中村 裕氏

2003年国の「観光立国宣言」により、観光が重要な産業であると広く認識され、それ以後官民一体となって観光産業の強化に取り組んでおります。今後継続的な産業の発展には、人材教育が急務です。

城西国際大学は、鴨川市に観光学部を有し、地域と連携した活動で実践的な視点を養うことを重視しての教育をしておられます。これは、観光業を学ぶうえで、非常に有意義であり、大切な経験になると確信しております。私も招かれて、JIU観光学部東京特別講座で講師を務めておりますが、観光業界を目指す学生諸君に直接体験を伝えられることをうれしく思っています。

また、ホスピタリティの実際を学ぶだけでなく、地域に埋もれた伝統芸能を観光資源と位置づけ、それらをアピールし地域活性化につなげていく社会貢献活動に取り組んでおられますが、これは力のある観光人材育成につながるものと大いに期待しています。

「千葉地域の活性化につながる社会貢献活動」

千葉県経営者協会
会長
大塚 弘氏

大学は、社会にとって最も重要な「人材」を生み出す重要な役割を担っているほか、大学が有する知識・ノウハウ・人材を地域と共有して地域活性化に大きく貢献することが期待されています。学校法人城西大学は、地域社会貢献活動、国際社会貢献活動、文化振興活動など、多岐にわたって積極的な活動を続けているほか、日本では珍しい観光学部を擁して「観光立県ちば」の一翼を担われるなど、産学官の取組みにも積極的に取組まれております。水田理事長以下、皆様のご努力にあらためて敬意を表したいと思います。

わが国は、少子高齢化が進展する中、都市部への人口一極集中が進み、地方経済の衰退が大きな社会問題となっています。これからの地域振興には行政と民間企業に加え、地元の大学の力が必要不可欠です。地域経済の再生を目指し、地元経済界としても、地元大学との連携を一層深めてまいりたいと願っております。

「日本／アジア映像研究センターに期待する」

映画監督
篠田正浩氏

このたび城西大学が設立した「日本／東アジア映像研究センター」の名誉所長を拝命し、光栄に思います。城西大学グループが建学以来、構想の核に国際社会への積極的な参加を目指してきたことは、キャンパスに足を踏み入れるごとに伝わってきます。もはや日本国内だけの動きに縛られていては、映像のもつ発信力は増大できません。とくに近年はハリウッドによる一極集中からアジア発の映像の表現力が、世界的な反響を呼びこんでいます。

日本は古代から中国大陸、朝鮮半島から多様で強大な文化の恩恵を受けてきましたが、近年目覚ましい中国・韓国・インドの国力の充実ぶりを目の当たりにして、東アジアから決して離脱できない運命共同体の一員であることを痛感させられています。この視点からも、「日本／東アジア映像研究センター」設立は時宜にかなったものであり、東アジアの国々と交流することで日本人自身の想像力を深化させ、世界の映像文化に寄与できる機関となることを心から期待しています。

編集後記

2009年度版学校法人城西大学社会貢献活動報告書をお届けできることを大変うれしく思います。

取組事例を本学が社会貢献活動を行うに際し、特に大切にしているキーワードごとに分類し紹介いたしましたので、どうぞご覧ください。また、美術館関係と建築関係については、年度を超えて掲載してあります。

昨年はじめて社会貢献活動報告を作成しましたが、その行為により、学校法人全体として、自らの活動内容を把握し、その意義の確認をするとともに、反省や工夫を次年度へ活かすことができました。

また、2008年度版をご覧になった多くの方から、はじめて大学がしている社会貢献活動の全体像がわかり、多岐にわたっての活動に驚くとともに共感を覚えたので、これから自分ができることがあれば、ぜひ協力したいと思いますとの声が寄せられました。大学を取り巻く方々との連携を取りながら、今後の活動に活かしたいと願っております。

この報告書により城西大学・城西国際大学・城西短期大学の活動にご理解をいただくとともに皆様からの忌憚のないご意見をお寄せいただければ、幸いです。

学校法人城西大学　法人本部
社会貢献推進チーム
社会貢献活動報告書作成チーム

〈表紙デザインについて〉

坂戸キャンパスの欅

1965年の創立時に坂戸キャンパスに植えた欅が、45年を経て心落ち着く大木に成長しました。創立者水田三喜男が、欅は大樹となるので、「学生たちに大器になってもらいたいこと、国家社会の柱となるよう自らの背骨としてほしいこと、武蔵野のシンボルであること」から、欅を選び、出来たばかりの大学に植えたものです。
創立者が学長として入学式のときに示した、人生の必要な要素として欅に託した、理智、愛情、勇気をこれからも大切にしながら、誠実に継続的にそして意義のある社会貢献活動を行っていきたいと考えています。